

いわき農林水産ニュース

平成30年9月号(第163号) 発行 9月27日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



イチジクの収穫シーズンまっただ中!
あま〜い旬の味覚を是非どうぞ。

目次

・【特集】GAP	p.1
〔各種取組の実績(8~9月)〕	p.3~
〔お知らせ・連載記事〕	
・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー	p.8
・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果	p.10
・イベント情報	p.11
・第1回ふくしま植樹祭一般参加者募集中!	p.12
・GAP コーナー	p.13
・ハタチ酒プロジェクト④	p.13
・6次化商品紹介	p.14

【特集】GAP

Good Agricultural Practice

GAPの重要性を再認識!

—生産・流通・販売業界から見たGAPとは—

9月3日(月)、いわき市中央公民館・文化センター大会議室にて、平成30年度いわき地方認証GAP研修会を開催しました。本研修会は、食品安全の観点から見た認証GAPの重要性や、流通・販売業界から見た認証GAPの必要性について理解を深めていただくために実施し、農林業者、市場・流通関係者、関係機関の方々など約50名に参加していただきました。

1 基調講演「食品安全の世界潮流と日本の課題について」

基調講演としてGFSI日本ローカルグループ議長(株)カーギルジャパンフードセーフティ部長/博士(農学)の篠田直樹氏を講師として招き、世界の食品安全への認識と、認証GAP取得による食品安全の保障についてGFSI※の取組内容と合わせてご講演をいただきました。篠田氏からは「世界では消費者から【当たり前】だと思われる食品の安全性を証明する手法が求められており、その一つ的手段としてGAPがある」など、認証GAPの必要性について貴重なお話をいただくことができました。出席者からは、「認証GAPが今後の販売戦略として重要になると感じた」といった前向きな声が挙がりました。



(研修会の様子)

※GFSI(グローバル・フード・セーフティ・イニシアチブ)とは

世界中の食品安全管理システムの継続的な改善を協働で推進するために食品業界の主要な関係者が集まり、「すべての消費者に安全な食品を」のビジョンとともに活動する団体。

2 パネルディスカッション テーマ:「認証GAP取得拡大に向けて」

基調講演の後は、「認証GAP取得拡大に向けて」をテーマとしたパネルディスカッションを実施しました。基調講演の篠田氏を含め、生産・流通など各業界の4名をパネラーとし、それぞれの視点で認証GAPの重要性と今後の普及拡大について討論しました。主な発言内容は次のページです。

〈各パネラーの発言〉

テーマ：認証GAP取得拡大に向けて



識見者

篠田 直樹氏

GFSI 日本ローカルグループ 議長
(㈱カーギルジャパン フードセーフティー部長/博士(農学))

認証 GAP は、自身の農林産物が安全であるという証になります。特に GFSI 認証スキームを持つ GLOBAL G.A.P、ASIAGAP は、世界規模の販路拡大が通用できる「パスポート」となります。新たなビジネス拡大に役立ててほしいです。



生産者

船生 典文氏

あかい菜園株式会社 代表取締役

GAP に取り組むことにより、農産物の安全性の他に、労働環境の改善や環境保全へつながったと感じます。農産物の安全性は、生産工程の大部分を担う従業員の取組が重要となります。GAP は従業員へ食品安全性を認識させる手段として用いることができると考えています。



生産者団体

吉野 萬治郎氏

JA 福島さくら 本店営農部 農業振興課長

JA は、GAP を付加価値等のブランドのためではなく、産地としての信頼確保と、ムダ・ムラを無くすことによる経営改善になると農業者に理解していただくように推進しています。団体認証によってGAP 農産物のロットを確保し、量販店へ提供していきたいです。



流通

鈴木 光栄氏

株式会社平果 副社長

取引相手である量販店では、GAP への関心が非常に高いです。しかし、量販店で取り扱うためにはロットの確保が重要です。GAP を取得している産地は未だに少ないのが現状です。また、同じ規格・同じ品質で供給する産地は、優先的に取引されます。認証 GAP はそのために非常に重要になります。

ディスカッションコーディネーター：いわき農林事務所 農業振興普及部長 久力 幸

討論後には、出席者からも認証GAPの種類を選択方法や農協からの具体的な指導内容等、実際の取組に向けた質問が投げかけられ、活発なパネルディスカッションとなりました。

なお、巻末で連載の「GAP コーナー」では、管内の最新のGAP取組情報や取得情報を発信しています。今月はGAP認証の一つ「FGAP（ふくしま県GAP）」の認証制度について紹介していますので、ご関心のある方はp.13をご覧ください。

(農業振興普及部)



高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策初動対応を確認！〔8月24日(金)〕

平成30年度福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方連絡会議を県いわき合同庁舎で開催しました。

家きん（鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、七面鳥など）において高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、拡散防止のため、速やかに殺処分をする必要があります。

これまで福島県内の家きんでの発生はありませんが、国内では発生しており、特に一昨年度は全国的に多発し、県内においてもいつ発生してもおかしくない状況です。

今回の会議では関係機関、団体の担当職員が鳥インフルエンザ発生時に適切に対応できるよう、情報の共有や初動対応等を確認しました。

高病原性鳥インフルエンザ発生リスクが高まる本格的なシーズン到来に向けて、万全の体制を整備してまいります。



（会議の様子）

（農業振興普及部）

ふくしま農見本市で青年クラブが直売活動を実施！

〔8月26日(日)〕

いわき農業青年クラブ連絡協議会が、郡山市のビッグパレットふくしまで開催された第28回ふくしま農見本市に参加し、会員が栽培したサンシャインいわき梨と、会員が製造したいちごジャムをトッピングした「いちごかき氷」を販売しました。

サンシャインいわき梨を試食した消費者は、「甘くておいしい！」と高く評価し、たくさんの方が購入されていました。また、天候にも恵まれ、いちごかき氷も人気を集めていました。

当日は、暑い中屋外での販売となりましたが、会員は消費者からの高い評価を直に感じ、生き生きと販売していました。



（販売の様子）

（農業振興普及部）

農林水産分野イノベーション・プロジェクトに係る法面除草ロボット実演会 〔9月5日(水)〕

四倉町駒込地区で法面除草ロボットの実演会を開催しました。法面除草ロボットは農林水産分野イノベーション・プロジェクトの「水稻超省力・大規模生産プロジェクト」の一つであり、平成28年度から県内で実証試験が行われてきました。

当日は、50名近くの生産者や関係機関が参加し、実際に法面除草ロボットが草刈りをする現場を見て、開発に携わる国の研究機関の職員に直に話を聞くことができました。法面除草ロボットは軽トラックでの輸送が可能で、リモコンで操作され、ナイロンロープで草を刈ります。特に大きな法面で効果を発揮し、傾斜40度まで作業が可能で、人が刈払い機を使用するより2～3倍のスピードで作業することができます。

今後、更なる改良を重ね、大規模稲作経営体の草刈りに係る労力、時間、コストの削減につながることを期待します。



（除草ロボットの構造を説明）

（農業振興普及部）

JA 福島さくら、ベトナムで日本梨の販売促進活動を実施！ [8月25日(土)・26日(日)]

JA福島さくらでは、(株)イオンのベトナムタンフーセラドン店において、日本梨「幸水」の販売促進活動を行いました。

店頭での試食PRでは、消費者の反応も大変好評で、店頭での価格が1個換算で約600円にもかかわらず売れ行きは好調で、2日間で400kgを完売しました。



(いわき産「幸水」のPR)

左：JA 福島さくら結城組合長



(店頭での陳列の様子)

ベトナムへの輸出は昨年へ続き2年目でしたが、いわきの美味しい日本梨を消費者により早く味わっていただくため、輸出第1便は空輸便で送り届けられました。今後は、「豊水」「新高」が順次船便で輸出する計画となっており、ベトナムでの販売は2月頃まで続きます。

(農業振興普及部)

「産地見学ツアー いちご・ねぎ・なし」開催！

[9月8日(土)]

いわき市内をバスでぐるりと周り、いちご、ねぎ、日本梨の3つの産地を訪れました。当日は、就農を希望する参加者13名とともに、①鈴木稔氏のねぎほ場(四倉町)、②農事組合法人稲郷神谷のいちごハウス(平中神谷)、③なし選果場(小川町)、④草野富夫氏の梨ほ場(平上平窪)を順に巡りました。

農業経営、就農のいきさつ、作物への想いといった生産者の話は、参加者にとって興味津々なもので、「10aでいくらの売上になるのか?」「1日の作業時間はどれくらいか?」など多くの質問が生産者に寄せられました。

また、今回訪れた生産者の「希望を持って、農業の世界に入ってきてほしい」とのメッセージは、参加者だけでなくスタッフにとっても印象的なものとなりました。(農業振興普及部)



〔「希望を持ってほしい」と訴える〕
梨生産者の草野氏

ステップアップ講座経営セミナー開催中！！

[8月23日(木)]

平成30年度ステップアップ講座経営セミナーの第1回目を県いわき合同庁舎で実施しました。内容は、要望を受けた農業簿記の講義で、農業簿記検定3級程度のDVD教材等を用いて行いました。参加者は10名の認定農業者や新規就農者、農業研修生などです。

簿記記帳は申告を行うために必要なスキルで、中でも青色申告は農業経営収入保険制度の加入要件でもあり、記帳技術の重要性は高くなっています。参加者には、慣れない作業に苦心する様子もありましたが、いつも非常に熱心に受講いただいています。今後も同程度もしくはレベルアップした内容で開催を検討しています。(農業振興普及部)

11月まで全6回実施。複式簿記記帳を未導入の方は、是非！次年度お知らせの際に参加をご検討ください。(TEL:24-6161)



(講義の様子)



広域農道整備事業いわき地区において「深礎杭工研修会」開催！

【8月29日(水)】
【8月31日(金)】

いわき市小川町で施工中の広域農道整備事業いわき地区の橋梁下部工の工事現場で、深礎杭工研修会を開催しました。いわき管内外から集まった約50名の職員を対象に、橋脚の基礎となる深礎杭工の施工手順や品質管理の手法について、当所職員が説明を行いました。



(研修の様子)

深礎杭とは、構造物全体の荷重を地中のとても硬い岩盤層(支持地層)に伝える役割をもっており、橋全体の安定に貢献している重要な構造物です。基礎には様々な形態がありますが、深礎杭工は大きな機械の進入が難しい場所でも施工が可能という利点をもっています。

研修においては、活発な質疑応答がなされ、高度な技術を要する深礎杭工の施工について理解を深めている様子でした。

(農村整備部)

小川江筋「斜め堰」見学と生きもの調査を実施！

【9月8日(土)】

磐城小川江筋土地改良区(理事長：高田幹久)は、受益地内の小学3年生の親子(15組30名)を対象に、小川堰と源門(小川江筋の取水部)の見学会とその下流水路(小川江筋)内での生きもの調査を開催しました。



(水路での生きもの調査)

最初に、17世紀に設置された小川堰の歴史や堰の形状の珍しさを説明しました。

この日はかんがい期間の最終日であり、取水を停止した水路内には大小様々な魚が水溜りに逃げ込んでおり、その魚たちを捕まえて生きもの調査を行いました。

学んだことを活かして小川堰を守る啓蒙用のポスターを子ども達が作成し、その作成したポスターを発表し合いながら理解を深めていました。

(農村整備部)

第2回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン 【9月2日(日)】

消費者へ県産農産物の安全性やおいしさをPRするため、サンシャインいわき梨(豊水)や梨ジャム(磐城農業高校商品)の試食を㈱マルト SC 中岡店で実施し、アンケート協力者にはサンシャインいわき梨をプレゼントしました。



【「サンシャインガイドいわき」による梨のPR・試食の様子】

試食いただいた方からは「いわきの梨はおいしい」といった声が多く聞かれ、同時開催した磐城農業高校生による梨関係6次化商品の販売では、「梨の加工品は珍しい」と興味を持たれる方が多くいらっしゃいました。

アンケート調査の結果、県産農林水産物の購入意欲に関して「購入したい」が全体の約97%を占め、GAPの取組については「知っている」が約41%を占めました。

(企画部)

林業の魅力を次世代へ！緑の青年就業推進事業

〔9月11日(火)〕

緑の青年就業推進事業は、林業分野への新規就業者の確保に向け、高校生を対象に見学、体験を実施し、林業に対する興味や関心を高めることを目的としています。

今回、事業の対象とした福島県立遠野高等学校は、林業分野への就業者の多い学校で、林業の魅力を伝えることができれば林業関係の就業につながる学校の一つです。

進路指導の先生との話の中で、生徒に興味を持たせるために体験活動の時間を含めてほしいとの要望があり、農事組合法人いわき菌床椎茸組合のしいたけ生産施設の見学、しいたけの収穫およびパック詰作業を行う体験学習を企画し、9月11日に同高校普通科3年生の19名を対象に実施しました。

生徒たちは、菌床からしいたけが発生しているところを見るのははじめてとのことで、職員の説明を聞きながら一つ一つしいたけを収穫していました。また、パック詰め体験では、きのこの傘の大きさや重量を確認しながら丁寧に作業を行っていました。普段はおとなしい生徒たちが、笑顔を交えながら積極的に職員に質問している姿を見て、引率の先生が改めて体験活動は重要だと話していました。

来年度も継続してもらいたいと高校からの要望があり、今年できなかった伐採現場や製材所等をフィールドに加え、実施したいと思います。(森林林業部)



(しいたけのパック詰め体験)

「ふくしま・いわき盛りだくさんフェスタ in 東京都庁」開催！(8月30日(木)・31(金))

東京都庁の全国観光PRコーナーにて「ふくしま・いわき盛りだくさんフェスタ in 東京都庁」を開催し、都庁職員や都庁展望台に観光に来た方に向けていわきの観光・物産をPRしました。

物販コーナーでは、JA福島さくらが旬のサンシャインいわき梨やトマトを販売したほか、いわき観光まちづくりビューローが「常磐もの」のかまぼこや6次化商品、日本酒などを販売しま



(サンシャインいわき梨の販売)

した。特にサンシャインいわき梨の試食では、そのみずみずしさと甘さに笑みをこぼすお客様が多くいらっしゃいました。

また、磐城農業高校の生徒による商品の販売も行いました。いわき市産の梨やイチゴを使用し、心を込めて開発した商品をPRする高校生の声に多くの方が足を止めてくださり、商品はあっという間に完売しました。

これからも様々な機会を通して、いわきの観光や旬の農産物、6次化商品の魅力を発信してまいります。(いわき地方振興局)



(高校生による加工品販売)



親子漁業体験バスツアー

〔9月1日(土)〕

いわき市漁業協同組合が主催する親子漁業体験バスツアーが開催されました。この企画は、地元漁業に触れる機会を通じて、震災後の本県漁業の復興状況や水産業への理解を深め、その魅力の再発見につなげるもので、市内在住の親子約30名が小名浜の下神白地区でさし網漁業の操業を見学しました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、参加者は見学用の漁船に分乗し、漁業者が行う揚網作業など操業の様子を間近に見まし



(生きた魚に触れる参加者)

た。現場での漁業者の説明に「さし網でどうやって魚を捕るのが分かった」「たくさん魚が捕れて楽しい」など感想が寄せられました。



(漁船に乗船する参加者)

また、帰港してからは、先ほどの操業で獲れたばかりの魚(ヒラメ、ヒラツメガ二等)をカゴや箱に展示し、参加者が観察する時間を設けました。子どもたちは中々見ることがない生きた魚に恐る恐る触れたり、掴んでみたりと、興味津々の様子でした。

(水産事務所)

底びき網漁解禁!

〔9月10日(月)〕

底びき網漁が、資源保護の禁漁期間を終え、9月から解禁となりました。いわき地区では初漁日となった9月10日に、10隻が沼之内魚市場と小名浜魚市場に水揚げしました。

あいにく、この時期の主要な漁獲物となるカレイ類は少なかったのですが、水揚げ物の中で比較的多かったものがアカムツです。日本海の主産地では別名「ノドグロ」と呼ばれ、高級魚として知られていますが、太平洋側でも水揚げされており、福島県で近年増加しています。そのほかに、干物として美味しいヤナギムシガレイが、全長20cm程のサイズを中心に比較的多くみられました。

全体の水揚げ量としては少なめで、少し寂しい感じの初漁となりました。今後は水温の低下とともに、ヒラメやマガレイなどの水揚げ量が増えてくることを期待します。

(水産事務所)



アカムツ
(小名浜魚市場)



ヤナギムシガレイ
(沼之内魚市場)

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.9

「黒毛和牛を三和町の特産に」を目指して地元を盛り上げます！

草野畜産 草野純一さん

前回取材にご協力いただいた白石さんから紹介のあった、ワンダーファームの営業マネージャーと三和町での畜産業に取り組む草野純一さんにインタビューしました！

牛の世話にマネージャーのお仕事と、毎日大忙し！

草野さん：私は、地元三和町で黒毛和牛の生産に取り組んでいます。畜産農家の長男として生まれ育ち、子どもの頃から牛と農業に親しんでいたため、迷うことなく農家の道へ進みました。今では就農して20年になりますが、両親と協力しながら丹精込めて牛の世話をしています。

また、四倉町のワンダーファームでは、2年前のオープン当初よりマネージャーとして働いています。イベント、集客、営業…と様々な業務に携わり、イベント開催時には我が家の子牛を連れていくなど本業を活かしながら、畜産はもちろん、いわきの農業全般を発信できるチャンスとあって全力で取り組んでいます。



インタビューにご協力いただいた
草野純一さん(42)

「現場から食卓まで」をつなぐ出会い

草野さん：草野畜産は、黒毛和牛の「繁殖農家」と呼ばれる農家です。現在は母牛を15頭飼っており、生まれた子牛を生後8～9カ月(300kg前後)まで飼育します。繁殖農家の仕事はここまで、その後は県内の「肥育農家」でさらに約20カ月肥育され、約800kgほどに成長したところでやっと肉になります。

私たちは、肥育農家に出荷した牛の行方をずっと知ることができませんでした。育てた牛がどのように販売・調理され、どんな人たちに食べられているか知りたいと思い、実現方法を模索していたところ、思わぬチャンスが訪れました。



草野畜産で生まれた
子牛(生後1カ月)



昨年9月には、宮城県仙台市で開催された「全国和牛能力共進会」で、草野さんの飼養牛「ひろご号」が県代表として出品され、優等賞を獲得しました。

東日本大震災以降、災害に負けまいと立ち上がった農業仲間や、たくさんの人と関わる機会が増えました。ある時、市内の食肉店の方と知り合い、出荷先の肥育農家からうちの肉を買い取っていただけることになったんです。こうして「現場から食卓まで」をいわきで見届ける一つのルートを獲得することができました。

現在では、様々な活動とともにしている萩春朋シェフの「Hagi フランス料理店」など、つながりを持った複数の市内の飲食店でうちの肉を使用いただいています。これらの出会いは私にとって本当に大きなものでした。

自慢の黒毛和牛で地元を盛り上げたい！

いわき市内で牛が飼われていることも含め、いわきの農業はまだまだ知られていないのが現状だと思います。草野畜産では、いわきの牛をPRするため、今後は繁殖事業に留まらず肥育事業への参入も視野に入れ、肉になるまでのすべての過程をいわきで完結させたいと考えています。ゆくゆくは、黒毛和牛を三和町の特産にして、大切な地元を盛り上げることが目標です！

そして、やはり一番大切なのは農業の現場に足を運んでいただき、実際に見て、体験していただくことです。ワンダーファームでは各種体験メニューや企業体験の受け入れもしていますし、草野畜産では、ここ数年で県内外の学生の体験受け入れも始めました。今後、こういった機会をもっと増やして農業の魅力が少しでも多くの人に分かっていただき、地元を盛り上げたいと思います。



牛を気遣う草野氏

草野畜産

【お問い合わせ】

TEL：0246-86-2959 所在地：いわき市三和町差塩字東作 75

市内では、次のお店で味わえます！！

- ★ 有限会社ヤマスギ食品 (小名浜岡小名3丁目9-5)
- ★ Hagi フランス料理店 (内郷御台境町鬼越171-10)
- ★ La Stanza (平三町目8-2 3F)
- ★ 華正樓 (平下平窪四左工門内152-6)
- ★ ダイニングキッチン月海-Ruu (植田町中央1-3-3)

お弁当、フレンチ、イタリアン、中華、創作料理・・・

それぞれのお店で、様々なテイストに調理された絶品の黒毛和牛が楽しめます！

トピック

市内12の小学校等に 第69回全国植樹祭メモリアルプレートを配布

全国植樹祭で使用された苗木を育成してくれた市内12の小学校等に、感謝の意を込めたメモリアルプレートを配布しました。このメモリアルプレートは、全国植樹祭においてお野立て所^{*}として使われたスギ集成材で作られています。参加していただいた小学校等の皆様には、大変喜んでいただくことが出来ました。

なお、苗木のスクールステイの参加校は次のとおりです。

平第一小、湯本第三小、藤原小、泉小、渡辺小、江名小、綴小、三和小、汐見が丘小、小玉小、高野小、いわき支援学校くぼた校

^{のだしよ} ※お野立て所とは、全国植樹祭の際に天皇皇后両陛下がご臨席なされた施設です。



メモリアルプレートを持つ
高野小学校の生徒

(森林林業部)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年8月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年8月の農林畜産物モニタリングでは、検査した6品目16検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

日本ナシ 2、ミョウガ 1、クリ 1、菌床しいたけ（施設）4、牛肉 4、原乳 4
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（8月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る*）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年8月の水産物モニタリング検査では、512検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年8月には99.8%となっています。9月18日現在の出荷制限等指示魚種は表の7種類となっています。 （水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ピノスガイ
クロダイ		

平成30年9月18日現在

野生きのこ等の出荷・摂取制限について

野生きのこ等の発生・採取時期を迎えますが、次の点に留意してくださるようお願いいたします。

1 出荷制限品目について

現在、いわき市産のきのこのうち、出荷等が制限されている品目は（表）のとおりです。

これらの品目は、**地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限は今シーズンも継続しています。**

このため、出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。また、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売等は行わないでください。

2 摂取制限品目について

いわき市産の野生きのこについては、摂取制限措置も取られていることから、食用とすることも控えてくださるようお願いいたします。

3 栽培きのこについて

「原木なめこ（露地）」以外の栽培きのこは、栽培前に生産資材（きのこ原木・ほだ木、菌床等）の安全性の確認を県の検査機関において実施します。国が定める当面の指標値（きのこ原木・ほだ木50Bq/kg）以下で安全性が確認できた生産資材のみ、販売目的のきのこ栽培に使用することができます。

また、発生したきのこは、出荷・販売前に県によるモニタリング検査を受ける必要がありますので、きのこ栽培の開始・再開を検討されている場合は、森林林業部までお問い合わせください。（森林林業部）

（表）いわき市産きのこの出荷制限等品目

出荷、摂取	品 目
出荷制限	野生きのこ、原木なめこ（露地）
摂取制限	野生きのこ

※市町村毎に出荷制限品目等が定められていますので、県のHP「ふくしま新発売。」（www.new-fukushima.jp）または森林林業部で確認してください。

イベント情報

いわき大交流フェスタ 2018

- 日 時 平成30年10月6日(土) 10:00~15:00
- 場 所 21世紀の森公園 屋内多目的広場
- 主 催 福島県いわき地方振興局
- 後 援 いわき市・広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・双葉地方町村会

いわき・双葉地域の味が楽しめる15店舗以上の飲食ブースや、小浜風童太鼓やじゃんがら念仏踊り等の伝統芸能ステージ、よしもとお笑い芸人のトークショー等々、様々な出展・企画が予定されています!

相双農林事務所といわき農林事務所も出展予定! /

会場内で「おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン」を開催! 県産農産物のおいしさや安全性をPRします。アンケート協力者やクイズ回答者には県産農産物をプレゼント! (数量限定)



いわき市フラワーセンターで秋の3大アグリイベントが同時開催!

- 日 時: 平成30年10月13日(土)・14日(日) 10:00~16:00
- 場 所: いわき市フラワーセンター (大花壇)

① 魅惑の果実DAY
~IWAKI FRUITS&SWEETS☆GARDEN~

■主 催 いわき市農業生産振興協議会

いわき産のフルーツ、いわき産フルーツの加工品(ジャム、スイーツ、料理等)販売、クラシックコンサート等

② Mahalo Laiki Day! 2018
~新米 Iwaki Laiki 感謝の日~

■主 催 「Iwaki Laiki」ブランド化推進本部

いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」新米収穫祝い企画! 米粉料理や加工品販売、ステージイベント等

③ フラワーセンター“オータムフェスティバル2018”

■主 催 いわき市フラワーセンター

クラフト作成等の体験コーナーやこども縁日等



第1回ふくしま植樹祭～ABMORI（エビモリ）～一般参加者募集中！

11月4日（日）に福島県南相馬市で開催される「第1回ふくしま植樹祭～ABMORI（エビモリ）～」・「第6回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭～いのちを守る防災林づくり～」の一般参加者（県内公募）を募集中です。

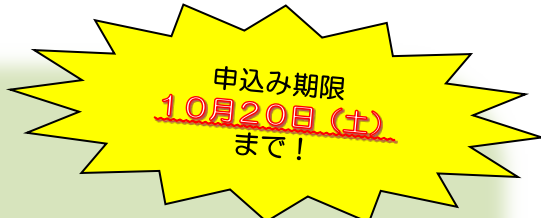
第69回全国植樹祭の開催理念を引き継ぎ、県民参加の森林づくり活動を促進していくため、今年度からふくしま植樹祭実行委員会の主催により、植樹祭に取り組むこととなりました。

申込み期間は10月20日（土）までです。応募方法はインターネットかFAXによる申込みとなっています。

当日は歌舞伎俳優の市川海老蔵さんが参加されます！

参加者の皆さんには、クロマツの植樹や手入れ、広葉樹の植樹をしていただきます。交流イベントでは、木工体験や薪割り、地元農林水産物販売、豚汁無料配布などが行われます。

募集の概要は以下のとおりですが、詳しくは、第1回ふくしま植樹祭のホームページを御覧ください。（森林林業部）



～募集の概要～

- 1 開催日 平成30年11月4日（日）
- 2 場所 南相馬市鹿島区北海老地内
- 3 募集人数 3,000人（先着順のため定員に達し次第申込受付締切となります。）
- 4 申込受付期間 平成30年9月18日（火）～平成30年10月20日（土）
- 5 応募方法 （1）インターネットでの申込（推奨）下記アドレスから申し込みできます。
（2）応募用紙をFAX（024-991-4741）
- 6 お問い合わせ先
ふくしま植樹祭事務局：電話 024-933-9666
南相馬市鎮魂復興市民植樹祭実行委員会事務局（南相馬市役所生活環境課内）
：電話 0244-24-5231

第1回ふくしま植樹祭ホームページ（福島県森林保全課）：
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055d/1syokuzyusai.html>

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

FGAP 認証の新制度により、 (株)JR とまとランドいわきファームがFGAP 認証取得しました！

昨年、創設された福島県独自のGAP認証制度「ふくしま県GAP（通称：FGAP）」に、今年8月、新たにFGAP追加認証・同時認証制度が追加されました。FGAP追加認証・同時認証制度の概要は下記のとおりとなります。この制度により、第三者認証GAP（GLOBAL G.A.P・ASIAGAP・JGAP）を取得している農業者が、FGAPの認証をより取得しやすくなりました。

このFGAP追加認証制度を用いて、平成30年8月31日に株式会社JRとまとランドいわきファームが野菜（トマト・ミニトマト）でFGAPの認証を取得しました。これにより、いわき管内におけるFGAP認証取得事業者数は2事業者となりました。
(農業振興普及部)

図 FGAP追加認証・同時認証制度の概要

	追加認証	同時認証
対象者	第三者認証GAP*を取得済みの農林業者	第三者認証GAP取得のため審査を受ける農林業者
概要	FGAPの放射性物質に係る認証基準・認証要件に適合しているか確認することにより、認証取得が可能です。 ※原則、書類審査のみとなります。	第三者認証GAPの現地審査と併せてFGAPの現地審査を受けることにより、同時期に複数の認証取得が可能です。 ※一部第三者認証GAP審査機関から内諾済み

※第三者認証GAP：GLOBAL G.A.P・ASIAGAP・JGAP等

「いわきハタチ酒プロジェクト」稲刈り完了！！

第4報

～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～

9月18日（月・祝）、いわき市内の酒販店10軒で構成している「いわきハタチ酒実行委員会」は、5月に田植えをした酒米・夢の香の稲刈りを行いました。この日は、秋なのに強い日差しが照りつける下、プロジェクトに参加申し込みをした二十歳前後の若者と実行委員会メンバー、企画協力の東農園さん、JA福島さくら農青連・夏井支部そして愛谷堰土地改良区の皆さんが一緒になって、手刈りによる稲刈りを行いました。若い参加者は、実行委員の酒販店メンバーの何倍も早いスピードで刈り取りをしていました。稲刈り終了後は、冬に予定している酒仕込み作業に向けて、太平洋酒造の大平社長から酒造りの講義を受けました。講義の中では、麴から作った複数



(稲刈りの様子)



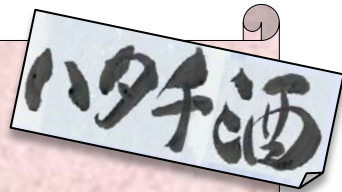
(酒造り講座の様子)

種の甘酒を実際に飲んでもらい、酒造りの過程について理解を深めてもらいました。

昼食は、田植えに引き続き、市内の居酒屋さんの差入れ（メンチカツ、春巻、味噌汁、ポーポー焼き）を受け、参加者全員が満腹になっていました。

ハタチ酒プロジェクトの行事は冬の酒仕込みまで少し間が空きますが、それまでの間、酒造り体験も楽しい企画になるように、実行委員会は企画を練りこんでいきます。

(農業振興普及部・農村整備部)



こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

三和町の「きのことマサ」では、健康食材として注目されているえごま(じゅうねん)を使った様々な商品を販売しています。

「おやしき じゅうねん味噌」は、じゅうねんがたっぷり練りこまれ、フチフチ食感が楽しいもちもちの皮に、じゅうねん味噌で味付けされたいわき特産のねぎとえのきが入っており、食べ応え十分の商品です。

「えごまケーキ」は、すったじゅうねんを生地にたっぷり加えることで、食材の持つ優しい風味を存分に味わうことができる、子どもから大人まで楽しめる人気の商品です。

その他にも、独自の技術と手間を加え完成させた「ジャム」「おかず味噌」「ドレッシング」があります。こだわりの味を是非お召し上がりください。



小野さんご夫妻

お問い合わせ

きのことマサ

●いわき市三和町上三坂字立町101-2
●TEL・FAX.0246-85-2755

【販売店舗】
きのことマサ
三和町ふれあい市場
田舎んぼ

おやしき じゅうねん味噌
●販売価格/160円(税込)

えごまケーキ
●販売価格/160円(税込)

えごまドレッシング
●内容量/180ml ●販売価格/400円(税込)

手作りおかず味噌 じゅうねん
●内容量/90g ●販売価格/150円(税込)

じゅうねんジャム
●内容量/140g ●販売価格/550円(税込)

お店では地元の食材を使ったじゅうねんダレの天ざるうどんや野菜天丼等もお召し上がりいただけます(営業時間(昼の部)11:00~15:00/(夜の部)17:00~要予約・月曜定休)。ぜひ足をお運びください。



編集後記

食欲の秋がやってきました！今号も、タイトル下のイチジクや草野畜産の黒毛和牛、上段「きのことマサ」の「じゅうねん」を使った商品などなど、いわきのおいしいものを紹介しています。いつものことながら、編集しているうちについつい食べたくなってしまいます。

また、9/20日には、いわき商工会議所主催の「メイド in いわき食の商談会」の様子を伺ってきました。ずらりと並びいわきのおいしいものに、わくわく感が止まりません！

この秋は、去年よりもいわきのおいしいものをたくさん味わうことを目標にしたいと思います。皆様もいかがですか？

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース